

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年8月17日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 7名	(依頼数) 9名
地域アンケート回答数	2名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3870900150
事業所名 (ユニット名)	グループホーム さわらび
記入者(管理者) 氏名	真鍋 さとみ
自己評価作成日	30年 7月 15日

<p>【事業所理念】 楽しく笑顔で</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・運営推進会議の開催日時のご案内を早めに行うようにした。→御家族、地域住民の参加が得られている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 1階と2階のフロアに分かれた1ユニットの事業所で、利用者同士がお互いに支え合って気遣い合っている様子が見える。食事時になると、他の利用者の居室を覗いて声をかけ、一緒に食堂へ降りたり、リビングで皆と一緒にテレビを見ている様子は、一家団欒の様だと感じた。玄関のテラスでお茶を飲んだり、皆で新聞折り込み広告を見て盛り上がったりすると聞き、利用者職員共に大変家庭的で穏やかな雰囲気の中過ごしている様子が窺えた。</p>
---------------------------	--	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	入居者の希望や意向を聞き、ケアプランに取り入れている。	◎	◎	◎	比較的自分の希望を伝えられる利用者が多く、把握できた事柄については細かく記録している。日々の暮らしにおける希望を書面にまとめ、事前に渡してくれている家族もいる。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	日々の関わりの中で、表情などから気持ちを汲み取るようにしたり、御家族から情報を得るなどしている。	◎	◎	◎	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	御家族が面会に来られた時には近況をお伝えしており、利用者の言動などからどのような『思い』があるのかを話し合っている。	◎	◎	◎	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	利用者の要望や意向をケアプランに取り入れ毎日チェックしている。	◎	◎	◎	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	利用者について、職員間で話し合いの場を持ち意見を出し合い、考えが偏ってしまうことのないよう努めている。	◎	◎	◎	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	御家族やご近所からの情報を得て、利用者の苦手なことなども把握できるよう努めた。	◎	◎	○	他の施設から移ってきた利用者が多く、以前の施設職員等からこれまでの暮らしについて聞き、事前調査表にまとめている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	生活動作を見ながらできることはして頂き、カルテに記入するなどして日々見守り、状態の把握に努めた。	◎	◎	◎	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	生活の場面で起こった状況をカルテに記録し、職員間で共有できるようにしている。	◎	◎	◎	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	いつもと違う表情や言動が見られたときにはカルテに記録し、利用者の不安などが軽減できるよう話し合い対応している。	◎	◎	◎	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	職員間で気づいた変化があれば、引継ぎ確認している。	◎	◎	◎	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	利用者の意向・要望に添った内容のプランを立てている。	◎	◎	○	入居時に聞き取った事前調査票や、日々の暮らしの中で新しく把握できた情報は職員間で共有し、常にアセスメントを深めていけるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	日々の生活の中で利用者の表情や様子を見ながら、利用者にとって必要な支援をさぐっていけるよう努めた。	◎	◎	◎	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	課題ができるだけわかりやすい内容となるようなプランにしている。	◎	◎	◎	

愛媛県グループホームさわらび

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	日々の生活場面から得た意向も取り入れるようにしている。	/	/	/	面会時に家族の意向を確認し、カンファレンスで検討した結果を踏まえて介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	日々の様子、ケアの実践、気づいたところはケアプランチェック表に記入し、ケアの方法の見直しを行っている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	少しでもできることがあればその力を引き出せるようなケアを行っている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	利用者の心の支えとなるよう、御家族との時間を過ごす事や手紙のやり取りなどの内容を盛り込んでいる。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	毎日のケアプランチェックを行い、入居者の状態について職員間で話し合う機会をたくさん作るよう努めている。	/	/	○	ケアプランチェック表があり、介護計画に沿った支援ができてきているかどうかの確認をしている。その時の利用者の様子や職員の気付き等についてコメントも記載し、職員間で共有する形になっている。経過記録等は丁寧に記録されており、利用者の言葉については忘れないようメモをするようにしている。週2～3回、法人の医療機関より看護師が来ており、バイタルチェック表も細かく記載されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	毎月の評価を行い、職員間で今後の対応を検討している。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	利用者の様子がわかりやすいように話した言葉そのままをカルテに記入している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	特に変わった様子について、カルテの他、ケアプランチェック表にも記入して職員間で共有できるようにしている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	毎月評価を行っている。	/	/	○	毎月モニタリングを行い、その時の利用者の状態に応じた介護計画になっているかどうかをケアプランチェック表により確認し、見直しをするようにしている。面会時には家族にも意向を確認し、介護計画の見直し時に反映させるようにしている。入院等利用者の状態に変化が生じた場合は、現状に即した新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	職員から声掛けし確認している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	介護計画作成時にいつでも作成のし直しができることを利用者に伝えており、実際に見直しもやっている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	課題の状況を日々確認し、チェック表に記録しカンファレンスにて話し合っている。	/	/	○	毎月最終火曜日がカンファレンスの日になっており、利用者のモニタリング等を行っている。その他、月に2回管理者会があり、代表者の他各事業所、施設の管理者や相談員等が集まっている。会議に参加できない職員には、会議録を回覧し共有するようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	リラックスできるよう、飲み物を飲みながら意見交換している。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	平日開催を基本とするなどし、工夫している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議録を作っており、参加できなかった職員は会議録に目を通してサインするという形式にしている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートを活用している。	/	/	○	申し送りノートがあり、面会や外出予定、外来受診について記載し情報共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートのほか、ホワイトボードも活用している。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(2) 日々の支援</b>									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	行きたいところ、したいことを聞いたら、基本業務との折り合いをつけつつ時間を作る努力をしている。	/	/	/	利用者の希望に応じるために、食べたいメニューや外出先など、自分で選択してもらう機会をつくるよう支援している。職員は利用者が生き活きた表情でいられるよう、常に笑顔で接するなど、明るい雰囲気になるよう配慮している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	その都度、意思確認するよう努めている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	難しい要望についても、ケアプランに取り入れ、少しでも要望に近づけるよう努めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	その日の体調や前日の様子も見ながら、臨機応変に支援している。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	職員が笑顔で対応し、明るい雰囲気になるよう努めている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情やしぐさから思いを読み取り、その時の反応をみて後の支援に活かせるよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	1人ひとりの性格や状況にも考慮し、声掛けの工夫をしている。	○	○	○	利用者の人権や尊厳を尊重し、トイレの入口には新しく暖簾を付けるなど、プライバシーに配慮した支援に努めている。日頃から職員は十分に配慮した声かけに努めており、優しく声をかけている様子が見受けられるなど、徹底した支援に取り組んでいる。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	利用者を呼ぶ時には本人の希望を聞き、親しみを込めた呼び方をするように心がけている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	利用者の性格を考慮し、対応している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	入室時には必ずノックをしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	入社時に説明があり、理解している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者に手伝ってもらったときには感謝の気持ちを伝えるよう心がけ、一方的な関係にはなっていない。	/	/	/	気の合う利用者同士、誘い合わせて一緒にリビングへ行く姿が見られた。利用者同士はお互いフォローしあうほど仲がいいので、トラブルになることはないが、不穏な状態になりそうな時は、職員が仲介し場を和ませるよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	支えあっている場面を見守り、支えてくれた側には職員からお礼を伝え、円満な関係作りに努めている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	1人ひとりのできることに応じて、利用者同士がフォローし合い良好な関係が構築できている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルで関係が悪くなった利用者については、2人きりにならないよう職員が見守っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさわらび

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	利用者が昔話をしてくれるときにはゆっくり傾聴し、重要な情報は共有している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居前に情報を得るようにしている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	お大師さんなど馴染みの場所にお連れしている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	職員が笑顔でお迎えし、利用者の居室などで過ごせるようご案内している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天候の状態なども見つつ、玄関先にあるテラスを利用したティータイムなど、少しでも外に出られるよう支援している。	○	×	○	毎月1日のお寺参りや近くのスーパーへ行くなど、利用者の希望に合わせた外出支援に努めている。重度の利用者も玄関横のテラスで日光浴をしながらゆっくりお茶を飲んで過ごしたり、敷地内の法人の売店へ出掛けるなどの支援に努めている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	現在出来ていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	外気浴・日光浴の支援をしている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	公園などへ外出ができる季節行事を作っている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症による周辺症状に対して、その背景は何かを探りケアできるよう努めている。	/	/	/	日常的に利用者には自分でできることはしてもらっており、利用者同士で助け合う様子も見られた。歩行訓練として廊下を往復したり、敷地内の散歩や毎日のラジオ体操など、利用者が自主的に身体機能の維持・向上等に取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	出来る限りトイレでの排泄をしてもらえよう支援している。車イスの方についても、手引き歩行するなどして支援している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	ボタンの1つでも自分でとめられるように見守りしている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	食事の準備や下膳、台拭きのみ等役割を持ち生活されている。	/	/	/	調理の手伝いや台拭き、食器洗いなど家事全般を、利用者が積極的に手伝っているなど、利用者一人ひとりそれぞれに合った役割や出番があり、毎日の日課となっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	利用者がそのときにできることはお願いしている。	◎	×	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	母体の病院でのイベントに参加し、地域の方との交流が持てるよう努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさわらび

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	散髪・ヘアカラーの希望があれば、利用者の要望を聞き対応している。	/	/	/	洋服の乱れ等があってもさりげなく整えるよう配慮している。重度の利用者も出張理容サービスの利用や家族の支援で馴染みの美容室へ通うほか、自分の好みの洋服に毎日着替えるなど、その人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	各自の好みのものを選んでもらっている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	御家族からも協力を得られている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	外出行事の時には、職員も一緒になって選び楽しんでいる。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	声掛けに工夫しながら、その場を離れるなど支援している。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	希望に添った美容室の利用や定期的に出張理容も利用している。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	状態に応じた介助を行うなどし本人らしく過ごせるよう工夫を行っている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	栄養を摂る以外の目的も理解している。	/	/	/	調理の手伝いや盛り付け、配膳など、利用者で分担して一緒に作業をしている。献立は法人の栄養士が立てているが、日頃より利用者に季節感のある旬の食材や昔懐かしい食べたいもののリクエストを聞くなど、要望に応えるようにしている。利用者の状態に合わせて、使い勝手のいい食器を使用している。利用者と職員が皆で一緒に楽しく団欒しながら食事をしている様子がとても印象的であった。利用者から調理の様子がわかるようになっており、重度の利用者も調理の音や匂いを感じることができている。母体法人の栄養士が、利用者の栄養バランスを考慮しながら献立を立てている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	定期的に、ぎょうざやホットケーキなど利用者の食べたい物を一緒に作っている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	混ぜる、盛り付けるなどそれぞれの役割を持ちながら調理をする事で自信に繋がっているようで笑顔がみられる。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	利用者の病状に応じた食事の提供を行っている。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	利用者から食べたいと要望があれば、対応するよう努めている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	◎	その日の体調や本人からの希望があればおかゆを提供するなどしている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	状態に応じて食器を変えるなどしている。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	利用者の近くで食べ、むせ込みや食べこぼし、お箸を落としてしまうようなことがあればすぐ対応している。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	目の前で調理できる、お好み焼きや餃子などホットプレートを使った料理を楽しんでもらっている。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	栄養士の考えたメニューを毎日提供し、糖尿食や腎食にも対応している。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	毎日の食事量チェックを行い、食事量が減っている時は本人の食べたい物を提供するなどの工夫をしている。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	昼食、夕食は母体病院の栄養士によるバランスの取れた食事を提供している。	/	/	○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	新鮮な食材を前日に準備している。	/	/	/			

愛媛県グループホームさわらび

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	食後や就寝前には口腔ケアの声掛けをしている。また必要な方については介助している。	/	/	/	職員は口腔ケアの際に、利用者全員の口腔内の状況を確認している。多くの利用者が自分で歯磨きをしているが、状況を見ながら義歯洗浄剤に浸ける等の支援を職員が行っている。必要に応じて外来受診や訪問歯科診療を依頼したり、職員が利用者一人ひとりの様子をこまめに確認するなど、清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアの際、状況確認している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	勉強会に参加したり、診察時に学び取り入れている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	できない方へは介助にて行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	出来る限り自力で行ってもらい、状況に応じて見守り、介助をしている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	状況に応じて御家族に連絡、診察援助している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	自分ならどうしてほしいかを考え、利用者に寄り添う心を忘れないよう心がけている。	/	/	/	トイレ介助が必要な利用者は少ないが、十分なアセスメントや利用者の希望を聞きながら、パッドやポータブルトイレの使用などを検討している。利用者一人ひとりの状況に合わせ、排泄自立を基本にした支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	勉強会に参加したり、定期的に看護師からわかりやすい説明を受けている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄の記録をつけ全職員が把握するようにしている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	本人の排泄に合った尿取りパットを使用するなど工夫している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	普段から食事量や水分量のチェックを行い、トイレで排泄ができるよう支援している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	自尊心を傷つけることのないよう、声掛けを工夫している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	御家族が選び持参してくれたり、こちらで準備する場合は御家族に相談したり、本人に選んでもらうなどしている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	利用者に合わせたオムツを状況にあわせて使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	廊下での歩行訓練、乳酸菌飲料などの水分を多めに摂って貰う等の取り組みをしている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	毎日入浴できるような体制を整えている。	◎	/	○	概ね2日に1回程度の頻度で入浴しているが、毎日入浴が可能な体制が整っており、利用者の要望等に応じた支援に取り組んでいる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	後から入浴される利用者に気を使わないように声掛けに工夫をしている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	必要などところのみ介助している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	その日の状態に応じて対応している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルチェックを必ず行い、観察している。	/	/	/	

愛媛県グループホームさわらび

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	定期的に巡回を行っている。	/	/	/	日中の活動を増やすなど工夫して過ごすことで、安易に眠剤に頼らない支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	その時の状態や発言をしっかりと申し送り、原因を探るよう努めた。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	出来る限り薬剤に頼ることなく、日中の過ごし方を工夫するなどしている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	ホーム内で自由に過ごせる様に声掛けしている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	希望があればいつでも対応できる様にしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	必要に応じてヒントを出す、などの支援をしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	希望があれば対応している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	届いた手紙には返事を出せるよう支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	御家族からの協力を得られており、御家族からも手紙や電話がある。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	支払いが出来る利用者は見守り、本人にしている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	母体の病院内にある売店に気軽に買い物に行けるよう支援している。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	少人数で気兼ねなく買い物できる様に支援している。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	お金の所持は利用者、家族の意向に任せており管理ができる方についてはしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	本人・御家族と話し合い、意向に任せている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	毎月、出納帳のコピーを送付している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	遠方の御家族に対して支払いの代行を行う等柔軟に対応している。	◎	/	◎	毎月1回のお大師さん参り等、利用者の希望にはできるだけ沿えるよう調整対応している。遠方の家族の利便性に配慮し、定期的な買い物の支払いの代行を行う等の支援も行っている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先に植物を置き、家庭的な雰囲気になっている。	○	△	○	玄関脇にはテラスがあり開放的で、花などの植物やベンチ等が置かれるなど、温かく家庭的で入りやすい雰囲気である。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	食堂のイスには本人の座布団を使用したり、ひざ掛けを置いたり、落ち着いて過ごせるよう心がけている。	○	△	○	玄関を入った所にもベンチが置かれており、利用者が座って外の様子を眺めたり、面会に来た人と座って話をしたりして過ごしている。職員が定期的に掃除し清潔が保てるよう努めている。季節の花を飾り、専用の座布団を置いたりひざ掛けを使用するなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除をし清潔が保てるように努めている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾るなどしている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	玄関先のソファや2階廊下ソファのようなくつろげる場所を設けている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	のれんをするなど工夫している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	馴染みの物や大切な人の写真を置くなど工夫している。	○	/	◎	事業所でベッドだけ用意しており、その他の家具は全て利用者の馴染みの物を持参している。ベッドから手の届く範囲に細々とした物を配置し、利用者にとって過しやすい家庭的な雰囲気の空間になっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	トイレや風呂場には必要などところに手すりが付いている。	/	/	/	トイレや浴室等には手すりを完備し、利用者の安全に万全を期しており、自立した生活が送れるよう支援している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	安心して生活できるよう環境作りを行っている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	新聞や雑誌、歌詞本などいつでも取れるようにしている。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	玄関、居室共に施錠することなく自由に出入りできるようになっている。	◎	x	○	職員は施錠することの弊害を理解し玄関など日中は施錠をしておらず、常に職員は見守りを行って安全を確保しながら、利用者は自由に出入りすることができている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	御家族との理解を図り、日中は玄関を施錠せず開放している。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	外出前には連絡するよう務めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	すぐに確認ができるようファイルにまとめている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日バイタルチェックを行い、変化があればカルテ・チェック表に記録をしている。バイタル表は毎月御家族に送付している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	母体の病院看護師と医療連携を行っている。利用者の変化や気になることがあれば、報告・相談している。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	これまでの受診記録を残し、全職員が把握できるようにしている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人・御家族の希望を大切に、かかりつけ医に受診している。受診結果、経過は御家族に報告している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	御家族から希望がある場合や、必要に応じて診察に同席してもらっている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	介護サマリーを活用し情報提供を行っている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院した場合には、面会に行き病院職員に状態を聞くなどして現状を把握するよう努めている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	月に2回、連絡会や定例会に参加している。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	週3回、看護師による健康管理を行い必要に応じて病院や家族への報告を行っている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	休診日、夜間でも母体病院に相談できる体制がある。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日の健康チェックを行い、普段の様子を知り変化があれば、看護師に報告し適切な支援を行っている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬についている説明書を見て把握するようにしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	内服介助の際、名前・日にち・時間などを声に出し確認している。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日常生活状況を観察し、食事チェックや排便チェックを行っている。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	状態に応じて医師に相談し、調整をしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさわらび

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化した場合には御家族・医師・看護師と相談し今後の対応を決めている。	/	/	/	入居時に聞き取った事前調査票には、延命治療についての希望の有無の欄もあり、職員間で共有している。母体の病院との医療連携は万全であり、家族や職員、医師等を交えた話し合い方針の共有に努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	母体の病院や関連施設との連絡会に参加し方針を共有している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	/	現在、看取りは行っていない。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	契約時に行い、理解を得るようにしている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	重度化した場合、看護師が医師に状態を報告し、指示を貰い対応している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	御家族からの相談があれば寄り添い安心して頂けるよう支援している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	院内勉強会や外部の研修に積極的に参加している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症マニュアルに沿って対応している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	地域の病院が開催している研修に参加している。インターネットからも最新情報を入手するよう努めている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	母体病院からの回覧板などで把握に努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	外出先から帰ったり食事前には、手洗いうがいをするように徹底している。また、手指用の消毒スプレーも設置している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時には近況を報告し、できる限り話し合うよう努めている。	/	/	/	事業所のイベント等へ家族に参加してもらえるよう、その都度案内を送付している。家族へは写真入りの報告書を毎月郵送している他、健康状態についてのチェック表や事業所の機関紙を送るなど、情報の提供に努めている。運営推進会議に参加している家族同士で交流することもできている。事業所の運営上のことや職員の異動等については、随時家族に報告している。家族からの事業所への意見や要望が出やすいよう、面会時に職員が必ず声をかけるよう努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	笑顔で対応し、気軽に来所してもらえるよう努めている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	イベントなどの案内をしている。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	月1回家族新聞を作成し本人の様子を伝えている。	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	◎	面会時に日々の様子を伝え、御家族から意見や要望を確認するようにしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	御家族との関係を理解し対応に工夫をしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	運営推進会議や御家族への手紙などでお知らせをしている。	◎	/	◎	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議やイベントへの案内を行っている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	その時の状態を報告し対応した結果もお伝えしている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	御家族の相談があれば聴き、御家族の気持ちに寄り添えるよう努めている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	不備のないよう努めている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	納得の行く退居先に移れるよう説明を行っている。退居先にはしっかりと情報提供を行うよう努めている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	説明し、同意を頂いて署名・捺印を頂いている。運営推進会議でも説明を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	関係が薄れかけた時期もあったが、再び構築できるよう努めている。	/	○	/	以前より地域との交流が少ないことを課題に感じていた管理者が、今回思い切って地域住民に声をかけてみた結果、運営推進会議に参加してもらえる方を紹介してもらえるなど、つながりが徐々に広がっている。今後は地域行事にも積極的に参加し、利用者が地域とのつながりがより持てるようになることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	月に1回ふれあい相談員が来所し、利用者との交流を図っている。	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	何かあれば助け合いたい、と話して下さる。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	時折、近所の方が遊びに来て下さる。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	近隣の方と会えば必ず挨拶をするよう心がけている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	◎	月1回ふれあい相談員の方が来所され利用者の話を聞いてくれたり、地域住民が訪ねてきてくれる。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	地域支援の把握に努めたい。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	玄関先のテラスを活用し、隣接しているジムの利用者や地域住民との関わりを大切にしている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	参加していただいている。	○	/	◎	運営推進会議へは利用者や家族、地域の方が参加している。運営推進会議では、自己評価や外部評価の内容等についても報告し、参加者には理解してもらっている。運営推進会議の参加者からの意見や提案が不十分なので、参加者からの意見等が出やすいような議題にするなど工夫し、意見等は集約し運営に活かせるよう努めて欲しい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	利用者の状況、行事報告を行っている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	ご意見は必ず聞くようにし、頂いたご意見に対しての結果を報告できるよう努めている。	/	×	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	運営推進会議の日程は地域住民の方のご意見を取り入れるようにしている。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	前回議事録を添付している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	短く覚えやすい理念になっており、実践しやすい。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	×	今後わかりやすく伝えていきたい。	○	×	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	研修の案内を管理者に伝えて参加するよう促している。	/	/	/	職員が外部の研修会や集まりに参加する機会が持てるよう配慮している。代表者は個別に職員と面談する機会を持ったり、ストレスチェックのアンケートを行うなど、職員のストレス軽減につなげている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	定期的に勉強会を行ったり、よりよいケアを提供できるよう日々のケアの中で実践している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年2回の自己評価があり、個別に話ができる場を設けている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	3ヶ月に1回の市内GH交流会への参加や、外部の研修にも参加している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	いつでも相談を受けつける体制を整備しており、ストレスチェックのアンケートも実施している。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	研修会への参加、勉強会にて理解するよう努めている。	/	/	/	研修会にも積極的に参加し、職員は不適切なケアや身体拘束についてきちんと理解し、緊急時の対応方法や手順等について共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	月1回のカンファレンスにて振り返っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	虐待防止の研修に参加し、職員全体で虐待への知識を深めるよう努めている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	利用者の様子は日常的に観察している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	身体拘束についてホーム内でも勉強会を行っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	その都度話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	今後そのような要望があれば、取り組みについて説明し話し合っていきたい。	/	/	/	

愛媛県グループホームさわらび

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	◎	研修会に参加し理解するよう努めている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	相談があった場合、パンフレット等を活用し情報提供を行いたい。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	市内の司法書士の方が定期的にイベントの案内に来所されており、必要時には相談したい。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	日勤帯・夜勤帯のマニュアルを作成し定期的に見直している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な研修に参加している。全職員が実践力を身につけられるよう努めたい。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故に繋がりそうな事例についてはヒヤリハットにまとめ話合っている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	日々の申し送りの時にも話し合うようにしている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し、定期的に見直している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	どの職員も対応できるような体制を整えている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があれば、母体の病院にも報告し前向きな話し合いができるよう取り組んでいる。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	毎月ふれあい相談員さんが来所され、利用者の意見や話を聞いてくれており、交流を図る機会になっている。	/	/	◎	毎月ふれあい相談員が来所し、利用者の意向を聞いている。家族からは面会時にいろいろな意見を聞くことができている。管理者は職員から定期的に話しを聴く機会を設けており、事務用品等職員が必要なものを即購入するなど対応している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	運営推進会議の案内をし、意見を頂いている。	○	/	◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	重要事項説明書にも記載し情報提供を行っている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	毎月運営会議があったり、文章でのやり取りも行っている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	定期的カンファレンスを行っている。日々の介護の中で意見を出し合えるようにしている。	/	/	◎	

愛媛県グループホームさわらび

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	利用者が快適で安心して生活できる場となるよう取り組んでいる。	/	/	/	<p>今後は外部評価結果等について運営推進会議でも報告し、アイデアや意見をもらって参考にしていきたいと考えている。家族等に外部評価について具体的によりわかりやすく説明し、今後の運営に活かしていけるよう努めることが望まれる。</p>
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	カンファレンスや申し送り時に改善すべき点や疑問点など、意見を出し合うと共に意識統一に努めている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	達成に向けて問題点が解決できるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	評価結果などを報告し取り組んでいきたい。	○	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	今後取り組みの成果を確認していきたい。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災・地震時のマニュアルを作成し定期的に見直しをしている。	/	/	/	<p>食料品の備蓄なども整備されており、法人として非常時の体制についてはマニュアル化され、避難場所等についても職員に周知されている。今後は家族や地域とより連携し避難訓練等に取り組み、利用者の安全に万全を期して欲しい。</p>
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年2回の防火訓練・年に1回の地域防災訓練への参加をしている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	防火訓練後、消防職員による立ち入り調査の後消火設備点検を行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	2か月に1度の運営推進会議の際、防火訓練を組み込んでいる。	△	△	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	防火訓練の際、母体の病院スタッフも応援に駆けつけてくれる。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	今後取り組んでいきたい。	/	/	/	<p>敷地内の他施設では認知症カフェや盆踊りを定期的に行い、地域の方が大勢参加しているが相談ニーズの把握が不十分なので、行事等の機会を利用し事業所のPRにも努めるなど、相談件数が増えるよう取り組んで欲しい。市や関係機関等が主催の研修会には参加し交流に努めているが、事業所独自の活動は実施に至っていないので、地域との連携を強固にし事業所主催のイベント等にも取り組むことに期待したい。</p>
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	地域の高齢者が困り事があった時相談しにきてくれる。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	地域の集まりの場として活用していきたい。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	看護実習の受け入れを行っていて、要請があれば受け入れてしている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	市町や他の医療機関が開催している研修に積極的に参加している。	/	/	△	